

## ■新第1庁舎 レイアウト説明会（議員説明会） 説明概要

日時：令和元年 11月 20日（水）午後 1時 50分～2時 30分

場所：仮本庁舎 第1・2委員会室

### ○村越市長

新第1庁舎レイアウト並びに階段についてご説明させていただきます。

本日は、資料に基づき4点のお話しをさせていただきたいと思います。

何をどのように変えようとしているのか、市民の皆様がどのように便利になるのかという話と、階段はこれから我々が改善しようとするにどのように関係してくるのか、最後にレイアウトについて進捗がありましたので、こういった点についてご説明したいと思います。

#### 【1 新第1庁舎 これまでの計画からの主な改善ポイント】

以前の庁舎のレイアウトのプランは、ワンフロア集約型といわれるものです。わかりやすくいうと、この仮本庁舎のようなもので、お客さんにその都度、担当課に出向いていただかなければならない。昔の庁舎もこういう構造でした。

また、元のプランでは、家でも職場でもない第3の市民活動の場所、いわゆる「サードプレイス」という言葉を使わせて頂きますが、市役所を活用していただくために2階の市民活動支援スペースという部分が確保されていました。

これらについて、私が市長に着任してから、いろいろと検討をしてきました。

新レイアウトでは、市役所に用事があって来られる方は一か所で用事が済むように、いわゆるワンストップサービスを、移転が完了した時点で開始したいと考えています。

この間の議会でもお話させていただいていますが、ゆくゆくは、ワンズオンリーと言って、1回市役所に来ていただき、住所や名前を転入の時に登録していただければ、基本的にはそれ以降、違う部署の手続きでもお名前を書いていただく必要がない、というところまでなるべく早く持っていきたいと考えています。

現在、我々はデジタルトランスフォーメーションに取り組んでいます。新しい庁舎には庁内に無線LANが入りますので、今までのように各課に出向く必要はなく、1階にお客さんに来ていただいたら、そこに職員が向かい、簡単な行政手続きは基本的には1階ですむ、という形にもついでこうとしています。

それを実現すると、市民活動支援スペースを従来の案から大幅に増やすことができるということです。これは先々の話ですが、デジタルトランスフォーメーションが進んでいくなかで、ワンズオンリーが実現したときには、基本的には、線路側の北側の部分も含めてすべて市民の方に活用いただけるスペースにできるのではないかと考えています。

次のページです。旧庁舎を思い起こしていただきたいのですが、まさに銀行の窓口のようでした。住民票を取りに来る方が、書類を書いて、ご自身の順番の番号を引いて書類が出てくるのを待つ。そういった様子でした。

私は市長選の時もこの話をしましたが、様々な行政手続きのために、市民の皆さんにわざわざ来ていただいて、待ってもらおうというのは非常にもったいない。待たされずに手続きを事前にすませて、もっと簡単に必要な書類をとれるようにできるだろうと信じています。こういう市民をお待たせするレイアウトで、この令和の時代に新しい役所を開けるといのはまずいだろうというのが、そもそもの私の問題意識でした。

新レイアウトでは、来庁者が市役所を楽しめる工夫として、待っている間は生産的な市民生活を豊かにするような文化活動や、ご自身の仕事をさらに深めていくために専門家に会うなど、有意義な時間を過ごしていただけるように変えていこうということです。

また、旧レイアウトの職員の執務スペースですが、「従来型オフィス」と書いてあります。この仮本庁舎がまさに従来型オフィスでありまして、真ん中にお客さんや職員が入ってくる動線を確保して、その南北に、島型に職員の机が並んでいます。新レイアウトでは、職員同士のコミュニケーションを増やす、そして市民サービスを向上させるため、可能な限りフリーアドレスを取り入れます。現代的なオフィスの要件を備えた執務空間をつくるのが、職員の仕事の能率を上げて、市民サービスを向上させる肝心のポイントだろうと考えて、そういう変更を加えています。

## 【2 窓口業務の見直し】

ここが、これまでの見直しにおいて一番時間を頂いたポイントです。

業務の見直しについて、こうした問題意識を私は元々持っていましたので、着任当初からいろいろなことをやってきましたが、デジタルトランスフォーメーションを進めながらも、窓口業務をどうやって改善するか、そしてその改善ポイントを含めたレイアウト検討はできておりませんでした。反省しなければいけないところであったと思います。

そのため、今年の夏以降に、市役所そのものや職員がどういう仕事を行えるのか、どこを合理化できるのかを、行革の視点を持って見直した上で、レイアウトを改めてもう一度検討しました。

窓口に関連する業務を点検して、ワンストップが可能なもの、ワンストップではできないもの、という仕分けをしました。ワンストップが可能なものは1階で、ワンストップができないものに関しては、2階でお話しをさせていただく、ということです。

## 【3 中央に設置する階段の必要性について】

ここで階段の必要性についてお話させていただきます。階段をつける、つけないという話だけが争点のようになってしまっていますが、これは階段の話ではなくて、新庁舎の機能改善であり、従来の計画を生かしながら、よりよく市民サービスを向上させられるかというプロジェクトでありまして、その中に階段をぜひ設置したいという話です。

単に階段をつける、つけないという話ではないということを、改めてご理解をいただきたいと思っています。

私は本来であれば、中階段というものは、1階と2階だけではなくて、2階と3階、3階と4階にもついていた方がよいと思っています。中階段を作って、職員が迅速にお客さんのところに行く、あるいは最初に申し上げたように、職員同士のコミュニケーションをきっちり取れるようにすることは、より良い市民サービスを行うためにもとても重要なことですし、現代的な仕事場

に必要であると私は思っています。

以前のレイアウトは、基本的にはこの仮本庁舎のしつらえが、このまま倍ぐらいに大きくなるしつらえでした。今の仮本庁舎の2階のレイアウトですが、中央にお客さんや職員が入ってくる通路があって、お客さんが待つスペースが確保されています。そして整然と職員が島の格好に並んでいる。これがそのまま大きくなるように、元々の新庁舎のレイアウトを設計していたわけです。私からすると、これはまずかろうという判断を勝手ながらさせていただいたわけでありませう。

ここに4点、階段をつけさせていただきたいという理由を書いています。

まず、理由の1つめ、1階で行うワンストップサービスを補完するということです。

住民票をとる等々の簡単な市民サービスは、1階で完結するということです。子どもの悩みだとか経済部の仕事とか、じっくり職員と話す必要のある手続きは、2階へ上がってきていただいて、ご相談を受けていくということです。

将来的には1階全体を市民活動スペースに変えていきたいと私は思っていますので、市役所をひとつの公民館のように活用していただき、役所に用事がない方は1階で、役所に用事がある方は、階段を使っただいて2階で職員とお話しをしていただくというふうに、市役所が機能すると思っっています。

理由の2つめ、「文化・経済エリアをつなぐ動線」です。2階の図面をご覧ください。

階段で2階へ上がってきていただくと、「文化・経済、市民活動」エリアや「子育て」エリアがあります。こういうレイアウトにしたのは、この「文化・経済、市民活動」エリアを、最初から設けてあった市民活動支援スペースをつなげていきたいということです。

我々が将来目指していきたいこと、どういうふうに活用していきたいかの具体例を、お示しています。

例えば、例1ですが、市内の企業が経済部と相談をするために役所に来ることがあると思っます。1階には銀行が入る予定ですが、せっかく銀行に出張所を出していただくのであれば、例えば市内事業者の事業承継関係の相談にのる、新たな起業する方の金融の融資の相談にのっていただく、というような銀行にとってもビジネスチャンスになるし、いらしていただいているお客さんからしても、何か新しいチャレンジの手助けになるような活動を1階でやっていただきたいと思っっています。例えばいちかわ未来創造会議というものをやっていますが、ノーベル賞候補だというような実験もあります。そういう事業をやっている人たちが、金融機関からアドバイスを受けて、実際にビジネスを立ち上げていくということが、すでに起こり始めています。そういうことができれば、1階のスペースというのは非常に魅力的な、どこにもない役所になるだろうと思っっています。

例2ですが、2階で活動するNPOが起業について経済部と相談して、1階で活動する弁護士グループが起業にあたっての法律相談を受け無事に起業する。弁護士など専門家の方々に1階を自由に使っただくことで、市民からすると法律的な相談がしやすくなります。市民の皆さんは単に行政手続きに市役所に来るのではなくて、日ごろの悩み事を相談しに市役所にやってくる、行政に対する相談ではなくて、あくまで民・民での活動が行われることです。

例3ですが、1階の市民等交流スペースで交流していた若手芸術家たちが2階の文化スポーツ部と相談して、多目的スペースを使ってミニ美術館を開催し世界へ発信する。これは市役所が手続きに来る場所ではなくて、市民が文化活動を発表する場として機能する。逆に言うと、そういった場所でない、今後の市役所というのは役割を果たさないだろうと私は思っています。

元のプランを決めるときも市民ワークショップの中で、何回も市民の皆さんに参加していただいたと聞いています。参加者から、もっと市民活動スペースは大きくあったほうがいい、というご意見がありましたので、将来的に1階が全て市民活動スペースになる、さらに2階の一部も使えるということは、とてもいいことじゃないかと思っています。

理由の3つめ、将来変化する庁舎機能への対応です。

新庁舎はこの仮本庁舎の倍くらいの広さになりますので、西側にしか上の階に行く動線がないとすると、市民の皆さんは不便だと思っています。繰り返しになりますが、私は2階以上にも階段があるべきだろう、と思っているくらいです。

最後、理由の4つめです。新時代における階段の必要性ということで、風通しの良い環境づくり、空間を明るくする効果、フロア同士の交流促進ということで、新しいオフィスにいろいろな動線があることは、仕事の能率が確実に上がります。これは職員の話であって、市民には関係ないじゃないか、というご指摘もあるかもしれません。しかし、私はやはり職員も健全で良い職場の環境を確保できないと、良い市民サービスも提供できない、と考えています。市役所というのは市民のためのものですが、仕事をする職員もより良い環境でないと十分に力を発揮できない、と考えています。

以上のような理由で、もともとは仮本庁舎と同様だったレイアウト案を、私の職業的な良心に従って、出来る限り改良させていただきたい、というお願いでございます。

本来であれば、12月議会に、このもろもろの変更に関わる予算の審議をお願いするところです。

しかし、わかりやすい三次元の絵、パースをご覧くださいなどして、こういうふうになるんだというようにお見せし、ご理解をいただく必要があります。また、市民の皆さんに対してまだ何も説明できていない状態ですので、まず11月22日に市民ワークショップに参加された方々に対する説明を行います。また、広報いちかわ、タウンミーティング、動画等々を交えた広報の機会を通じて、新庁舎がどういうふうオープンするのかを周知してまいります。きっと、新庁舎がオープンしたときには、大きく変わったと感じていただけたと思います。

説明会、資料の提供等々をさせていただき、十分に時間を設けて、2月の議会で、ご審議いただいて、この案をご承認いただきたいと思います。

この新しいレイアウト案について、いろいろなご意見がある方もいらっしゃると思います。ただ、無茶苦茶な話をしているとは思っていませんし、市民の皆様のご理解はいただけているので、しっかり説明を尽くさせていただいて、この計画をお認めいただきたいと思いますので、何卒よろしくお願いたします。

私からは以上でございます。ありがとうございます。